府立平野高等学校
校長　小畑　敦彦

令和７年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

「自信を持ち前向きに生きる人」、「自立した人」、「社会に貢献できる人」を育成する学校

上記「めざす学校像」を実現し、社会を支え未来の地域社会に参画する原動力となる生徒を育成する。

１　自己を確立し未来を切り開く力を育成する。　――― 充実した学校生活を実現して成長し、社会に役立つ人 ―――
２　勉強がわかり学んだことを活用できる力を育成する。――― 学習活動を基本に据え、自信に溢れ前向きに生きる人 ―――
３　人とつながり自らを律する力を育成する。　――― 他者を思いやり、地域から信頼される強くて優しい人 ―――
４　生徒に寄り添い、生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員を育成する。

２　中期的目標

１　自己を確立し未来を切り開く力の育成　→　安心な学校生活の充実と規律ある高校生活を保障し、地域社会を支える人間を育成する

（１）安心で充実した高校生活の実現

ア　学校が楽しく安心できる場となり、当たり前に学校に登校できる生徒を育成する。
イ　生徒理解に努め、厳しく鍛えるとともに暖かく寄り添う生徒指導を推進し、生徒自身が「なぜいけないのか」「どうすればよいのか」に気づく指導を行う。
ウ　学校行事では、生徒会や部活動が中心となり、生徒が企画・立案・運営に自主的に参画できる体制をすすめる。
エ　生徒情報を共有し、生徒サポート会議を中心に、「チーム平高」として一人ひとりの教育的ニーズに応じた生徒支援をさらに充実する。

【到達目標】　※「自己診断」とは 学校教育自己診断 を示す。

○　自己診断（生徒）における「学校に行くのが楽しい」の肯定率 80%以上をめざす。　[R４:76.8% → R５:75.4% → R６:77.3%]
○　自己診断（生徒）における「学校生活についての指導には納得できる」の肯定率 90%以上を維持する。　[R４:85.4% → R５:85.3% → R６:90.9%]
○　自己診断（生徒）における「担任以外にも相談を聞いてくれる先生がいる」の肯定率 90%以上を維持する。　[R４:82.2% → R５:85.6% → R６:94.6%]
○　年間の遅刻件数 1000 件以下をめざす。　[R４:1227 件→ R５:1324 件→ R６:1338 件]
○　年間懲戒件数５件以下をめざす。　[R４:　９件 → R５:　22 件 → R６:　12 件]
○　自己診断における「平野高校に入学してよかった」の肯定率 90%以上を維持する。　[新設　　R６:生徒 90.9%　保護者 100%]

２　勉強がわかり学んだことを活用できる力の育成　→　確かな学力の育成をめざし、授業がわかる喜びを実感し、自ら伸びる力を育成する

（１）主体的・対話的な深い学びの視点からの「わかる授業」の推進

ア　主体的・対話的で深い学びの実現に向け、生徒を主体とした「学習力」の視点での授業をすすめるとともに、「教員の授業評価の３観点」を浸透させる。
イ　生徒が主体的に参加できる授業や ICT 機器をツールとして活用した授業等をより一層推進し、「わかる授業」によって自主的に学ぶ姿勢を育成する。
ウ　観点別評価を活用した「指導と評価の一体化」をめざし、「指導にいかす評価」を見える化し、生徒の学習意欲の向上につなげる。

（２）キャリア教育・人権教育の推進

ア　「総合的な探究の時間」を柱にキャリア教育を進める。
イ　卒業後の生活まで意識して、生徒自らが生き方の指針を作れるよう、様々な出会いを通したキャリア教育・人権教育を進める。
ウ　すべての教育活動が人権教育につながるという意識を持ち、普段から人権意識の向上に努める。

【到達目標】

○　自己診断（生徒）における「学校の授業はわかりやすい」の肯定率 90%以上をめざす。　[R４:86.3% → R５:89.2% → R６:90.1%]
○　自己診断（生徒）における「先生は、教え方にさまざまな工夫をしている」の肯定率 90%以上を維持する。　[R４:91.1% → R５:92.1% → R６:94.7%]
○　自己診断（生徒）における「命の大切さ、人権、社会のルールを学ぶ機会」の肯定率 90%以上をめざす。　[R４:87.8% → R５:84.7% → R６:87.8%]
○　進路決定率 100%をめざす。少なくとも 95%以上を維持する。　[R４:97.5% → R５:99.0% → R６:98.9%]

３　人とつながり自らを律する力の育成　→　多様な人間関係の中でコミュニケーション能力を養成し、地域から信頼される強くて優しい人間を育成する

（１）他校種や地域との連携を深め、多様な学びの場を保障するとともに、地域から信頼され愛される学校をめざす。

ア　環境科学コースのビオトープや人間福祉コースの実習をはじめとした地域の方々との交流を通して、自尊感情を高め、生徒の自信の醸成を図る。
イ　学校行事、部活動、生徒会活動、閉校に向けたイベントなど、様々な機会で、近隣の幼小中学校や福祉施設など連携をすすめる。
ウ　学校 Web ページや SNS 等を活用し、生徒会の生徒とも連携して情報発信を積極的に行う。

（２）国際理解教育を推進し、グローバル社会を生き抜く力を醸成する。

ア　韓国スタディーツアーを実施するとともに、帰国後には発表会を行う。
イ　海外からの留学生をはじめとした海外の生徒や、海外からの旅行者と交流する機会を設ける。

【達成目標】

○　自己診断（保護者）における「環境・福祉・国際理解等の教育課題を学ばせている」の肯定率 85%以上を維持。　[R４:88.0% → R５:86.5% → R６:94.4%]
○　自己診断（保護者）における「Web 活用した情報提供に満足」の肯定率 85%以上をめざす。　[R４:71.0% → R５:77.2% → R６:81.3%]

４　生徒に寄り添い、生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員の育成　→　「チーム平高」の教育者としてアップデートし続ける

（１）新たな教育課題と向き合い、社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成を図る。

ア　すべての常勤教員／非常勤／SC／SSW／学習支援員の席がある大職員室とし、生徒情報の共有とともに「チーム平高」の意識を高め、OJT を推進する。
イ　教科を超えた教員どうしが授業見学しあうなど、授業実践について当たり前に共有できる雰囲気を継続する。
ウ　他校の授業見学や発表会、府立人研の研究集会などに参加し、広く学ぶとともに、職員会議で共有する。

（２）「働き方改革」をすすめ、教職員一人ひとりの意識改革を推進し、長時間勤務の縮減を図る。

ア　時間外在校等時間の見える化を継続し、メリハリのある働き方を心がける。

【達成目標】

○　自己診断（教職員）における「学校教育活動について日常的に話し合っている」の肯定率 90%以上を維持する。　[R４:95.0% → R５:89.2% → R６:91.3%]
○　自己診断（教職員）における「授業方法等について検討する機会を積極的に持つ」の肯定率 90%以上を維持する。　[R４:85.0% → R５:56.8% → R６:91.3%]
○　自己診断（教職員）における「学校は働き方改革に取り組んでいる」の肯定率 90%以上を維持する。　[新設　　R６:　100%]
○　時間外在校等時間 年間 400H 超の教員ゼロをめざす。　[新設　　R６:　５人]

府立平野高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和　　年　　月実施分］	学校運営協議会からの意見

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R６年度値]	自己評価
1 自己を確立し未来を切り開く力の育成	**(１)安心で充実した高校生活の実現** ア　生徒理解に努め、厳しく鍛えるとともに暖かく寄り添う生徒指導を推進し、生徒自身が「なぜいけないのか」「どうすればよいのか」に気づく指導を行う。 イ　学校行事では、生徒会や部活動が中心となり、生徒が企画・立案・運営に自主的に参画できる体制をすすめる。 ウ　生徒情報を共有し、生徒サポート会議を中心に、「チーム平高」として一人ひとりの教育的ニーズに応じた生徒支援をさらに充実する。	**(１)日々の見守りと助言により生徒は安定する** ア①学校に安心できる居場所をつくるとともに、担任だけでなく全ての教員が様々な機会で生徒に関わり、生徒自身の気づきを大切にした指導を行う。 ②生徒会執行部とも連携し、生徒自らが「社会基準」のルールや身だしなみを理解し、自ら進んで心がけるよう指導する。 ③基本的生活習慣の確立のため、まず遅刻件数を減らすよう取り組む。保護者との連携も丁寧に行う。遅刻の多い生徒には、どうすれば減らすことができるかを一緒に考えながら、粘り強く指導を行う。 イ　体育大会や文化祭だけでなく、様々な学校行事をできる限り生徒主体で進めることで、連帯感・達成感・成就感を経験し、多くの感動を体験することで、自己肯定感を高める。 ウ　課題を抱えた生徒に迅速かつ組織的に対応するために、生徒サポート会議等で集約したうえで全教職員に共有し、「チーム学校」として SC や SSW 等の専門職とも連携しながら対応し、個々の生徒を支援する体制を継続する。	**(１)** ・自己診断(生徒)の、 「学校に行くのが楽しい」を 80%以上［77.3%］ 「担任以外にも相談を聞いてくれる先生がいる」を 90%維持［94.6%］ 「学校生活についての指導に納得」を 90%維持［90.9%］ 「学校行事はみんなが楽しく行えるように工夫されている」を 90%以上［87.9%］ 「平野高校に入学してよかった」を 90%維持 ［生徒 90.9%　保護者 100%］ ・自己診断(保護者)の、 「学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」を 85%以上［83.3%］ ・年間の遅刻件数 1000 件以下［1338 件］ ・年間懲戒件数５件以下［12 件］	
2 勉強がわかり学んだことを活用できる力の育成	**(１)「わかる授業」の推進** ア　生徒を主体とした「学習力」の視点での授業をすすめるとともに、「教員の授業評価の３観点」を浸透させる。 イ　観点別評価を活用した「指導と評価の一体化」をめざし、「指導にいかす評価」を見える化し、生徒の学習意欲の向上につなげる。 **(２)キャリア教育・人権教育の推進** ア　卒業後の生活まで意識して、生徒自らが生き方の指針を作れるよう、様々な出会いを通したキャリア教育・人権教育を進める。 イ　すべての教育活動が人権教育につながるという意識を持ち、普段から人権意識の向上に努める。	**(１)わかる授業により生徒は安定する** ア①主体的・対話的で深い学びの実現に向け、生徒自らが考える「学習力を引き出す授業」を実施し、「生徒にとってわかりやすい授業」「生徒が主体的に参加できる授業」を展開する。 ②「互いに高めあう教員集団」育成をめざし、いつでも気軽に授業見学ができる雰囲気を醸成するとともに、教員の取組みの共有化をすすめる。 イ　観点別評価が浸透したので、「生徒がやる気の出る評価」をさらに進め、「スモールステップの評価」「定期考査にとらわれない評価」「ゴールフリーな評価」等も研究し、「指導と評価の一体化」をめざす。 **(２)** ア①「総合的な探究の時間」を柱に、ホームルームや学校行事等も活用し、様々な出会いを積極的に取り入れ、自分ごととととらえることで、キャリア教育・人権教育を推進する。 ②進路に向けての取組みは、全校あげて全教職員で実施する。 イ　人権教育は特別なものではなく、すべての教育活動が人権教育につながることを教職員は意識する。	**(１)** ・自己診断（生徒）の 「学校の授業はわかりやすい」を 90%維持［90.1%］ 「教え方にさまざまな工夫をしている」を 90%維持[94.7%] ・授業見学後の振り返りを全教員で共有できる取組みを引き続き実施する **(２)** ・自己診断（生徒）の 「命の大切さ、人権、社会のルールを学ぶ機会」を 90%以上［87.8%］ ・進路決定率 100%をめざす。少なくとも 95%維持［98.9%］	

府立平野高等学校

３　人とつながり自らを律する力の育成	**（１）地域から信頼され愛される学校をめざす** ア　学校行事、部活動、生徒会活動、閉校に向けたイベントなど、様々な機会で、近隣の幼小中学校や福祉施設など連携をすすめる。 イ　学校 Web ページや SNS 等を活用し、生徒会の生徒とも連携して情報発信を積極的に行う。 **（２）グローバル社会を生き抜く力を醸成する。** ア　韓国スタディーツアーを実施するとともに、帰国後には発表会を行う。 イ　海外からの留学生をはじめとした海外の生徒や、海外からの旅行者と交流する機会を設ける。	**（１）自尊感情の高まりにより生徒は安定する** ア　平野高校の、人的・物的資産を有効活用した地域連携イベントを開く。イベントに生徒が主体的・積極的に関われるように計画し、「ともに学び、ともに育つ」教育をすすめる。 イ　学校 Web ページやブログだけでなく、新たに SNS や動画配信サービスも活用した情報発信もすすめる。 **（２）** ア　最後の韓国スタディーツアーを実施する。希望者全員が参加できるよう工夫する。帰国後は全校生の前で発表会を行い、取組みを共有する。 イ　姉妹校の韓国大成一高校からの生徒の受入れだけでなく、海外の学生・生徒との交流を実施する。さらに、海外からの旅行者に英語で声をかける取組みを今年も実施する。	**（１）** ・生徒が主体的に関わる地域連携イベントを実施する。幼小中学校との連携イベントは５回実施する。 ・自己診断（保護者）の「Web を活用した情報提供に満足」を 85%以上［81.3%］ **（２）** ・自己診断（保護者）の「環境・福祉・国際理解等の教育課題を学ばせている」を 85%維持［94.4%］	
４　生徒に寄り添い、生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員の育成	**（１）「学び続ける」教職員を育成する** ア　すべての常勤教員／非常勤／SC／SSW／学習支援員の席がある大職員室とし、生徒情報の共有とともに「チーム平高」の意識を高め、OJT を推進する。 イ　他校の授業見学や発表会、府立人研の研究集会などに参加し、広く学ぶとともに、職員会議で共有する。 **（２）「働き方改革」** ア　時間外在校等時間の見える化を継続し、メリハリのある働き方を心がける。	**（１）生徒も教職員も「ともに学び、ともに育つ」** ア①大職員室を有効活用し、生徒情報は些細と思われることでも当たり前に情報共有や相談ができる環境とする。 ②「チーム平高」の意識を高め、個人で抱え込むことなくチームでの対応をすすめる。それにより教員のスキルアップにもつなげる。 イ　来年度には全ての教職員が異動するので、他校の様々な実践から学ぶ機会を多くつくる。 **（２）** ア①時間外在校等時間について、教員への個票配付と学校状況の共有化を実施する。 ②在校等時間の長くなっている教員には個別面談を実施し、メリハリのある働き方をともに考える。	**（１）** ・自己診断（教職員）の「学校教育活動について日常的に話し合っている」を 90%維持［91.3%］ 「授業方法等について検討する機会を積極的に持つ」を 90%維持［91.3%］ ・他校見学、研究集会参加等をのべ５回実施 **（２）** ・自己診断（教職員）の「学校は働き方改革に取り組んでいる」を 90%維持［100%］ ・時間外在校等時間 年間400H超の教員ゼロ［５人］	